

令和2年5月5日

九州裏研の考え2

様々な論点を再度ご検討いただきありがとうございます。補助金制度に関する質問状、関東裏研様のご回答を踏まえ、九州裏研としての意見を述べさせていただきます。

まず、補助金制度に関する質問状につきましては、我々九州裏研の意見もご考慮くださいますようお願いいたします。作成していただいた質問状で総本部にご提案していただけたらと思います。

また、九州裏研が発案いたしました「総本部が提示した補助金を出していただける下限人数に $+\alpha$ を設定して一般会員に提示する」についてですが、こちらの説明不足により混乱を招いてしまい申し訳ございません。再度ご説明させていただきます。

九州裏研といたしましても、補助金支給の要件が曖昧であるがために学生が研修に参加しづらい状況を踏まえ、明確なキャンセル期限の設定と補助金有無の早期確定は重要であり、これらを三裏研学生のみで解消することは困難だと認識しております。よって、補助金制度に関する質問状にございます各項目について、総本部の方々よりご回答いただくことは必要であると考えております。

4月に関東裏研様より共有いただきました補助金制度論考に基づくと、「5. 補助金キャンセル期限時点で参加人数が補助金支給の条件を越えていた場合、その後キャンセルが発生して参加人数が補助金支給の条件を下回っていても補助金を支給する」という制度を総本部に承認してもらうためには、「11. 正当な理由以外のキャンセルを極力少なくする必要性」「12-4. 正当な理由によるキャンセルが原因となって補助金支給がなくなるような制度」等が挙げられていました。しかし、たとえ正当な理由のキャンセルだとしても、総本部が提示した補助金支給規定人数を下回ったのならば、補助金の支給は厳しいのではないかと懸念しております。そこで、正当な理由のキャンセルを受け付けたとしても、可能な限り提示された規定人数を下回らないよう、参加者を募る際に下限人数 $+\alpha$ を学生へ提示することを提案いたしました。これにより、正当な理由のキャンセルを受け付けることで規定人数を下回り、結果補助金が出ない事態を極力避けられるのではないかと考えられます。また、総本部の方から出された補助金支給条件をできる限り反しないように、という裏研としての誠意も示すことができるとの理由も含め、前回の回答では「こちらの提案は学生に対するものではなく総本部の方々が補助金制度論考に納得していただけることが目的」だと記しております。

今後の総本部との交渉で活用していただける場合、趣旨や理由等詳細なものが必要になるのではないかと考え、再度ご説明させていただきました。

なお、他の論点や新規規則案等につきましては、特に異存ございません。